グローバル教養学部

Ⅰ　2022 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022 年度大学評価結果総評】（参考）

グローバル教養学部は、グローバル社会で活躍する人材育成のための教育課程・教育内容を持ち、そのなかでも、とりわけ少人数教育の利点を最大限に活かす工夫を行っていることは大いに評価できる。

オンライン、ハイフレックスにかかわらず、対面授業と同様にアクティブラーニングを実施し、学生の英語能力の向上に向けた初年次教育にも取り組んでおり、高い教育効果をあげている。

当学部では、2022 年度中に、2020 年度にスタートした現行カリキュラムの問題点を洗い出し、改革案を策定することを重点目標とする。2024 年度からの新カリキュラムの大枠では、専門性の強化の点において改善が期待される。

2023 年度秋入学入試から新規導入予定の指定校制度により入学者の安定的確保を目指すこと、あわせて入試改革の策定も継続して課題として取り組むことが望まれる。また、学部主催の研究会（Research Talk/Symposium)を一般公開する、あるいは、社会連携の企画を立てるという年度目標もぜひ進めていただきたい。

【2022 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

蜜を避けるため初回の授業はオンラインで実施したが 2 週目より原則全ての授業において、コロナ禍以前と同様、対面によるアクティブラーニングを実施している。

新カリキュラムの策定に向けて、2022 年度に学部全体で議論を重ね、新カリキュラムの大枠が決定した。2023 年 4 月からは、学部のカリキュラム委員会内にタスクフォースを作り、その実現に向けた具体策を練っている。春学期には新カリキュラムの詳細設計を終え、秋学期から運営準備を行う予定である。

入学者の安定的な確保及び入学後のミスマッチを防ぐことを目的として、2024 年度入学者を対象とした総合型選抜の抜本的な変更についての議論を 2022 年度秋学期から始め、既に結論を得た。今後はこの変更に関して、受験生を含む関係者への浸透と理解に取り組む予定である。さらに付属校枠と指定校を増やすことも検討している。

学部主催の研究会については、引き続きより良い研究環境の整備と研究意識の向上に取り組むとともに、社会との繋がりを意識した企画にしていく。また、産学連携組織として 2023 年 4 月 1 日、GGLI（GIS Global Leadership Initiative）が学部内に発足した。主目的は GIS 生へのキャリア支援であるが、今後、この組織の活動を通して、学部と産業界との関係性を深めていきたいと考えている。

Ⅱ　自己点検・評価

1　教育課程・学習成果

（1）点検・評価項目における現状

1.1　授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を記入してください。
（英語） Students who have acquired enough credits, and met the learning outcomes outlined below, will be conferred with a Bachelor (GIS Liberal Arts) degree: 1.　Problem solving skills Having a critical ability to identify problems in everyday life, make unbiased judgements, and adopt an analytical perspective that

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

transcends conventions and narrow disciplinary confines to arrive at solutions for the problems.

2. Ability to put academic knowledge into practice
Having a deep and knowledgeable understanding of the most topical issues facing the world today, and being able to apply this effectively to a range of issues drawn from various contexts.

3. Understanding of diverse and different cultures
Having up-to-date and precise understanding of nations, regions and communities with diverse race/ethnicity, language, values and social systems, and showing respect for their different cultures.

4. English communication skills
Having an excellent command of the English language, being able to grasp the fine points of any argument and actively and effectively contribute to discussions and debates.

（日本語）
所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に「学士（国際教養学）」の学位を授与する。

１．問題発見・解決能力：日常の具体的出来事から真の問題点を発見し、それを偏見や先入観にとらわれず整理し、向かうべき方向性を見出す能力。また、固定したものの見方に囚われない、領域横断的な問題分析能力を有すること。

２．学術知識の応用力：地球全体が対処すべき諸問題について、深い教養と最先端の議論に精通し、それらを現実社会に応用できること。

３．異文化・多文化の理解：民族や言語、価値観や社会制度を異にする国家・地域・コミュニティーに関する正確かつリアルタイムの知識。また、それぞれの固有文化の意義を尊重する姿勢があること。

４．英語コミュニケーション能力：相手の論点を的確に理解し、議論に積極的に関わることのできる高度な英語運用力を備えていること。

1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。	はい
1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。	はい

【根拠資料】

・GIS ウェブサイト
（https://www.hosei.ac.jp/gis/about-gis/policy/diploma/）
・2022 年度 GIS 履修の手引き
・カリキュラムマップ
（https://www.hosei.ac.jp/application/files/1216/8085/2521/20230401.pdf）

1.2　授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

記入してください。
（英語） The following curriculum has been developed based on a liberal arts education in order to foster students with a high awareness of the need to contribute to global society, and to equip them with the abilities, knowledge, and moral values to succeed in that society. 1. Broad liberal arts education Students can acquire a broad liberal arts education, develop the ability to identify and solve problems, as well as critical and ethical judgment, and enhance their awareness of different cultures and multicultural societies, by choosing from a diverse range of subjects within the Humanities, Social Sciences, and Management Sciences. 2. Interdisciplinary education and specialized knowledge Students build a foundation in interdisciplinary education by completing a balanced number of courses from a diverse range of disciplines. They focus on the fields they are interested in, complete comprehensive courses from a range of disciplines, and cultivate an interdisciplinary perspective that goes beyond the framework of existing fields. In years 3 and 4 they develop specialized knowledge in their chosen field of study through seminars and acquire the ability to apply basic knowledge to specific challenges. 3. Small classes All courses are organized into small classes so that students develop flexible and critical thinking through interactive learning, such as presentations and discussions. 4. Education in diversity Students learn about diversity in many of their classes, while being placed within a university community which itself is formed of faculty staff and students who come from a range of backgrounds. By actually experiencing diversity, they learn to respect diverse and different cultures, to personally develop a flexible mindset which is free from prejudice, and they deepen their understanding of different people. 5. English education Students in the first year take English skills courses to enable them to read and write academic essays, and construct opinions logically in English. All courses are taught in English throughout the 4 years of the degree program, which allows students to attain an advanced level of English proficiency. （日本語） 高い意識をもってグローバル社会に貢献し、そこで成功するための能力・知識・倫理観を備えた学生を育てるために、リベラルアーツ教育を軸にした下記のようなカリキュラムを編成する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

１．幅広いリベラルアーツ教育：Humanities、Social Sciences、Management Sciences の中から、多様な科目を履修することで、幅広いリベラルアーツの教養を身に付け、問題発見・解決能力と批判的かつ倫理的な判断力を伸ばし、異文化・多文化の尊重を促す。 ２．学際教育と専門性：様々な学問分野からバランスよく履修し学際教育の基礎を作りながら、興味のある分野を中心に、様々な学問分野から総合的に科目を履修し、既存分野の枠組みを超えた学際的な視座を修得する。 3-4 年次にはゼミ研究を通し、興味の分野において専門性を伸ばし、基礎知識を特定の問題に適用する力を養う。 ３．少人数教育：全ての授業において少人数編成を徹底し、プレゼンテーションやディスカッションなどの双方向型学習を通し、柔軟な思考力と批判的思考力を伸ばす。 ４．ダイバーシティー教育：多様性について多くの授業で学ぶとともに、多様なバックグラウンドをもつ教員や学生で構成される学部内のコミュニティーに身を置き、実際に多様性を経験することで、異文化・多文化を尊重し、偏見にとらわれることのない、柔軟な態度を身につけ、異なる他者に対する理解を深化させる。 ５．英語教育：学術的な論文の読み書きができ、論理的に意見を組み立てられるように、1 年次に英語スキル科目を履修する。4 年間、原則全ての授業を英語で履修することで、高度な英語運用力を身につける。	
1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
・GIS ウェブサイト （https://www.hosei.ac.jp/gis/about-gis/policy/curriculum/）	

1.3　教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学学則」第 23 条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい

1.4　学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①「法政大学学則」第 22 条の 2（履修科目の登録の上限）に基づき、1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
1.4②学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4③学生の学習指導を適切に行っていますか。	はい
1.4④学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行っていますか。	はい
1.4⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	はい
1.4⑥シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
【根拠資料】	

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

・新入生のための授業関連情報のウェブサイト （https://www.hosei.ac.jp/gis/zaigakusei/information/2023spring/） ・2023 年度春入学生用新入生ガイダンス （https://www.youtube.com/watch?v=uq-xl64QIfM&t=1178s） ・在学生のための授業関連情報のウェブサイト （ https://www.hosei.ac.jp/gis/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54） ・教員による新入生オリエンテーション（2022 年第 15 回教授会議事録） ・秋入学生のためのガイダンス（2022 年第 7 回教授会議事録） ・教員による新入生個人面談の報告（2022 年第 1 回教授会議事録） ・2022 年度兼任教員説明会資料（Teaching in GIS） ・GIS Syllabus 2022 （https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2022&gakubueng=&t_mode=pc） ・自己学習支援委員による個別面談の報告（2022 年第 7 回教授会資料 D-8、第 12 回教授会資料 C-5） ・2022 年度春学期受講者数エクセル表 ・2022 年度秋学期受講者数エクセル表 ・セレクションの結果 春学期（https://hosei-keiji.jp/gis/class/selection-2023s/） 秋学期（https://hosei-keiji.jp/gis/class/selection-2023f/） ・シラバス執筆に関する兼任講師への依頼文 ・2022 年度シラバス第三者確認について（第 12 回教授会、第 13 回教授会資料 C-10、第 15 回教授会資料 D-7） ・2022 年度授業相互参観の実施報告書（第 14 回教授会資料 D-3） ・2022 年度学生モニター制度実施報告書（第 13 回教授会資料 D-8）

1.5　成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学学則」第 17 条（卒業所要単位）に基づき、卒業の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
・2022 年度 GIS 履修の手引き ・2022 年度兼任教員説明会資料（Teaching in GIS）	

1.6　学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーを記入してください。
（英語） GIS verifies the academic results of students against the admission, curriculum and diploma policies, and the below.

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

Period	Method	Learning outcome
When applying	・High school graduation report ・Reference letters ・Statement of purpose ・External English test scores (TOEFL, IELTS and STEP) ・Written test ・Interview ・General entrance examination	・Basic academic ability (AP1) ・Flexible and logical thinking (AP2) ・Understanding of the Faculty educational objectives (AP3) ・Motivation to learn (AP4) ・Sufficient English language proficiency for keeping up with classes (AP5)
First year education (Year 1)	・Small classes, and experience diversity in an academic community which itself is formed of faculty staff and students from a range of backgrounds. ・English proficiency test score (TOEFL-ITP (Level 1)) ・Results of exercises and tests in English required subjects (Academic Writing Skills and Reading Skills) ・Completion of 100-level General Study Courses	・Introductory knowledge of a wide range of disciplines (DP2) ・Basic understanding of different cultures and multicultural societies (DP3) ・Sufficient English language proficiency for keeping up with academic classes (DP4)
Foundational education stages (Years 1 to 4: Core courses)	・Full completion of 100-level Introductory Courses from a range of disciplines ・Results of mid and end of term examinations in 100-level Introductory Courses ・Acquisition of credits	・Ability to identify problems in everyday life (DP1) ・Basic knowledge of a wide range of disciplines (DP2) ・Basic critical thinking ability (DP1 and DP2) ・Basic logical thinking ability (DP1 and DP2) ・Sufficient English language proficiency to understand basic academic knowledge (DP4)
Applied education stages (Years 2 to 4: Intermediate courses)	・Full completion of 200-level I Intermediate Courses from a range of disciplines, participation in group and class discussions, interactive study, such as presentations, and academic essay writing ・Results of mid and end of term examinations in 200-level Intermediate Courses ・Acquisition of credits ・Approval of credits obtained during study abroad at other universities	・Ability to make unbiased judgements about problematic issues, without bias or prejudice, to arrive at solutions (DP1) ・Deepening of specialist knowledge of each region (DP2) ・Acquisition of interdisciplinary research techniques (DP2) ・Practical logical thinking ability (DP1 and DP2) ・Constructive critical thinking ability (DP1 and DP2) ・Sufficient understanding of diverse and different cultures (DP3) ・Sufficient English language proficiency to discuss, debate and make presentations on set themes (DP4) ・Various abilities obtained during study abroad at other universities (DP1, DP2 and DP4)
Applied education stages (Years 3 to 4: Advanced courses)	・Full completion of 300-level Advanced Courses from a range of disciplines, participation in group and class discussions, interactive study, such as presentations, and advanced academic essay writing ・Results of mid and end of term examinations in 300-level Advanced Courses ・Experience diversity in 400-level Seminars formed of faculty staff and students from a range of backgrounds ・Fieldwork, analysis and evaluation/criticism of academic papers, and peer assessment in 400-level Seminars ・Dedication to produce original research for graduation thesis and creative projects in 400-level Seminars ・Acquisition of credits ・Approval of credits obtained during study abroad at other universities	・Ability to adopt an analytical perspective that transcends conventions and narrow disciplinary confines (DP1) ・Ability to explore current social problems and cultural phenomena based on up-to-date knowledge and outside the bounds of narrow disciplinary confines (DP2) ・Advanced logical thinking ability (DP1 and DP2) ・Interdisciplinary critical thinking ability (DP1 and DP2) ・Ability to finish graduate research using the knowledge and techniques that have been learned (DP1 and DP2) ・Deep understanding of diverse and different cultures (DP3) ・Advanced English language proficiency to discuss, debate, make presentations and write about specialist themes (DP4) ・Various abilities obtained during study abroad at other universities (DP1, DP2 and DP4)
At graduation	・Acquisition of credits ・Career situation (employment, graduate school, etc.) ・Questionnaire at graduation	・To acquire the abilities of the above applied education stages, and be prepared to make use of them to the fullest extent possible in future (such as employment, graduate school, etc.)

（日本語）
GIS では、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに照らして、下記のとおり検証を行う。

時期	手段	学修成果
入学時	・調査書 ・推薦状 ・志望理由書 ・外部英語試験スコア（TOEFL、IELTS、STEP（英検）） ・筆記試験 ・面接 ・一般入試成績	・基礎的な学力（AP1） ・柔軟な発想と論理的思考力（AP2） ・学部の教育目標の理解（AP3） ・学習意欲（AP4） ・授業についていくことができる十分な英語コミュニケーション能力（AP5）
初年次教育 (1年次)	・少人数かつ多様なバックグラウンドをもつ教員や学生で構成される学部内のコミュニティーにおいて多様性を経験 ・英語能力テストスコア(TOEFL-ITP （Level 1）) ・英語必修科目（Academic Writing Skills、Reading Skills）の演習・試験の成績 ・100-level General Study Coursesの履修	・幅広い学問分野の入門知識（DP2） ・異文化・多文化の基礎的な理解（DP3） ・学術的な授業についていくことができる十分な英語コミュニケーション能力（DP4）
基礎教育段階 （1年-4年次： 初級科目）	・100-level Introductory Coursesを様々な学問分野から総合的に履修 ・100-level Introductory Courses の中間・期末試験の成績 ・単位習得状況	・日常の具体的出来事から真の問題点を発見することができる能力（DP1） ・幅広い学問分野の基礎的な知識（DP2） ・基礎的な批判的思考力（DP1、DP2） ・基礎的な論理的思考力（DP1、DP2） ・基礎的な学術的知識を理解することができる英語コミュニケーション能力（DP4）
応用教育段階 （2年-4年次： 中級科目）	・200-level I Intermediate Coursesを様々な学問分野から総合的に履修、グループディスカッション、クラスディスカッションへの参加、プレゼンテーション等、双方型学習、学術的なエッセイの執筆 ・200-level I Intermediate Coursesの中間・期末試験の成績 ・単位習得状況 ・海外留学先大学で履修した単位の認定	・問題点を優先や先入観にとらわれず整理し、向かうべき方向性を見出す能力(DP1) ・各領域の専門知識の深化（DP2） ・学際的な研究手法の習得（DP2） ・実践的な論理的思考力（DP1、DP2） ・建設的な批判的思考力（DP1、DP2） ・異文化・多文化の十分な理解（DP3） ・特定のテーマで議論、討論、発表することができる英語コミュニケーション能力（DP4） ・海外留学先大学で習得した各種能力（DP1、DP2、DP4）
応用教育段階 （3年-4年次： 上級科目）	・300-level Advanced Coursesを様々な学問分野から総合的に履修、グループディスカッション、クラスディスカッションへの参加、プレゼンテーション等、双方型学習、学術的に高度なエッセイの執筆 ・300-level Advanced Coursesの中間・期末試験の成績 ・多様なバックグラウンドをもつ教員や学生で構成される400-level Seminar において多様性を経験 ・400-level Seminarでのフィールドワーク、学術論文の分析・評価・評論、学生同士の相互評価 ・400-level Seminarでの卒業論文や創作プロジェクトへの取り組みと発表 ・単位習得状況 ・海外留学先大学で履修した単位の認定	・固定したものの見方に囚われない、領域横断的な問題分析能力（DP1） ・現代社会の諸問題と文化現象を最新の知見を基に領域横断的に探究できる能力（DP2） ・高度な論理的思考力（DP1、DP2） ・学際的な批判的思考力（DP1、DP2） ・修得した知識と手法を糧に卒業研究を仕上げることができる能力（DP1、DP2） ・異文化・多文化の深い理解（DP3） ・専門分野のテーマで議論、討論、発表、執筆することができる高度な英語コミュニケーション能力（DP4） ・海外留学先大学で習得した各種能力（DP1、DP2、DP4）
卒業時	・単位習得状況 ・進路状況（就職、大学院進学等） ・卒業時のアンケート	・上記、応用教育段階における各種能力とそれらを進路先（就職・大学院進学等）で最大限に活かす心構え

1.6②上記のアセスメント・ポリシーは、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標となっていますか。	はい
1.6③授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーに基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6④学習成果を可視化していますか。	はい
【根拠資料】	
・ゼミの卒業論文の題目公開ページ （http://gis.hosei.ac.jp/cms/?courses=seminars）	

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.7　教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（入学前アンケート・1 年生アンケート・卒業生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい
【根拠資料】	
・「2022 年度卒業生アンケート」（第 14 回教授会資料 C-9）	

（２）特色・課題

以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。
【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。

【教育課程・教育内容】
・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証
・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供
・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。）
・幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程の編成
・初年次教育・高大接続への配慮
・学生の国際性を涵養するための教育内容の提供
・学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育の適切な実施

特色	学生の国際性を涵養するための教育内容の提供

・ディプロマ・ポリシーに「地球全体が対処すべき諸問題について、深い教養と最先端の議論に精通し、それらを現実社会に応用できること」「民族や言語、価値観や社会制度を異にする国家・地域・コミュニティーに関する正確かつリアルタイムの知識。また、それぞれの固有文化の意義を尊重する姿勢があること」「相手の論点を的確に理解し、議論に積極的に関わることのできる高度な英語運用力を備えていること」と記されているように、国際性の滋養は GIS における教育の根幹である。
・不確かな時代において、将来、リーダーとして国内外で生き抜くために必要なグローバル基準のマインドセット、知識・教養、スキルを身に付けるための教育を、4 年間、英語によるリベラルアーツ教育を通して行っている。
・グローバルリーダーとして、地球規模の問題や文化現象を様々な多面的に捉え解決するには、幅広い学問領域に触れ、学際的な視座に立った最新の理論や知見を必要とするため、グローバル教養学部では現在、人文、社会科学、ビジネスを中心として約 30 の学術分野（200 科目以上）を提供している。それらの多くはグローバルな視点で学ぶ科目であり、学生の国際性の滋養に寄与している。
・なお、最新の理論や知見は先進国を中心として世界のあらゆる場所で、英語で発表・蓄積されており、ビジネスを含む様々な分野における専門家とのコミュニケーションもまた当然のように英語で行われていることも、全ての講義を英語で実施している理由である。
・グローバル教養学部は英語での講義を通して、間接的に高い英語力が身に付くようカリキュラム設計されている。入学時に英語運用能力が低い学生に対しては、早期に授業に付いていくことができるようライティングスキルを始めとした複数のアカデミックスキル科目を用意している。ネイティブ教員によるアカデミックアドバイザーが常駐しており、いつでも気軽に授業や英語について質問ができる環境もある。
・学部独自の留学制度（Overseas Academic Study Program）が設置されており、

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

参加希望者には毎年説明会を実施し、目的や意義、注意事項等を説明している。2022年度は8人の学生が参加し、現地の学生と肩を並べて学んだ。
・近年、最新の知見と専門性を身に付けるために世界トップレベルの海外大学院への進学を希望する学生が増えてきたことから、グローバル教養学部では、2023年4月よりGSAS（Graduate School Application Support）プログラムを開始した。

【教育方法】
・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）
・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）

課題	教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）

グローバル教養学部では、学生の主体的な学びを促すため、授業形態として全ての授業において、教員と学生・学生同士の対話やディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等を通したアクティブラーニングを導入しており、学生の思考力や表現力、リーダーシップ、チームワーク力等を中心にこれまで一定の学修効果をあげてきた。海外で教育を受けた経験がある教員が多く、アクティブラーニング方式に慣れていることもアクティブラーニングが機能している理由でもある。しかし、アクティブラーニングは、より深い理解や主体的に考える力を身に付けることができる一方、時間を多く要することから授業においては学生が習得する知識量が制限されることが多い。そして、その知識は授業以外の時間を利用し課題等を通して身に付けることとなるが、学生によってばらつきが見られる。また、科目のレベル・特徴によっては、例えば基礎科目等は、講義形式で行われることもあるが、講義形式における効果的なアクティブラーニングを整理する必要がある。今後はこれまで蓄積した知見を分析し、学生によってより効果的なアクティブラーニングの方法を模索していきたいと考えている。

【学習成果】
・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用。
・アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み
・アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み

特色	アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り

・全学生の履修単位数、GPAをカリキュラム&FD委員会と教授会で確認している。
・入学時および1年修了時にTOEFL ITPを実施し、英語運用力の向上が見られたかを確認している。
・大学評価室による各種アンケート調査、卒業後の進路調査の結果を教授会で共有し、学部独自の分析を行っている。
・学生モニター制度(2022年11月17日実施)等を通して教育課程や学修成果に関する学生の意見を聞き、教授会で共有している。
・教員による相互授業参観を実施し、教育課程の内容や方法の適切性について、担当教員にフィードバックし、教授会でもその内容を共有することで教育内容と方法の改善につなげている。
・春学期と秋学期にはそれぞれ学生のGPAや履修単位数を確認し、成績不振者を特定して自己学習支援委員による個別面談等を行っている。
・学生は入学時と一年次終了時にTOEFL ITPを受けており、各年度の初年度教育の効果、とりわけ英語運用能力の向上について確認している。入試経路により入学時は英語運用能力に多少のばらつきが見られるものの、スコアの低い学生ほど、英語運用能力が著しく伸びているが分かり、英語運運用能力の分散が小さくなることを確認している。
・ゼミでの学習成果に関しては、2021年度より各ゼミの卒業論文の題名をグローバル教養学部のウェブサイトで公開している。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。
特色
ゼミだけでなく開講科目全てにおいて少人数教育を徹底している。各教員はオフィスアワーの活用や課題のフィードバック等を通して、学生一人ひとりにあった教育指導と個々の学習成果の把握や改善に向けた助言を行っている。
課題
期待される学習成果をあげることができる「専門性が高く英語で教授できる非常勤講師」の確保が困難である。

2　学生の受け入れ

（１）点検・評価項目における現状

2.1　学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①学部ごとに学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を記入してください。	
（英語） Candidates who meet the following can gain admission to GIS: 1.Have the basic academic ability for adequately completing the curriculum of the Faculty. 2.Can think flexibly and logically, without being restricted by narrow views. 3.Have an adequate understanding of the Faculty philosophy and educational objectives. 4.Are motivated to devote themselves to continued and active studies and have acquired such study habits. 5.Have sufficient English language proficiency for keeping up with classes taught entirely in English. （日本語） 1.本学部のカリキュラムを十分に消化し得るだけの基本的な学力を有すること。 2.柔軟な発想と論理的思考力を有すること。 3.学部の理念と教育目標を十分理解していること。 4.継続的かつ能動的に勉学に励む意欲がありそのような習慣を身につけていること。 5.世界基準での英語の授業についていけるだけの十分な英語力を有すること。	
2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
・GIS ウェブサイト（https://www.hosei.ac.jp/gis/about-gis/policy/admission/）	

2.2　学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していま

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

すか。
多様なバックグランドを持つ学生を受け入れるため、総合型選抜と一般選抜を行っている。総合型選抜では、国外の教育制度の下で教育を受けた生徒も出願できるようにしている。2022 年度入試からは一般選抜にも英語外部試験のスコアを出願資格に含め、英語での授業についていけるだけの 4 技能（Writing, Reading, Listening, Speaking）を有していることを確認している。入学者選抜には基準点を設け、それに準じて公正に実施している。一方、総合型選抜においては 2024 年度入試より英語スコアによる出願基準を廃止する等、抜本的な変更を行った。その変更により、受験生が持つ資質や能力（現在の英語力および入学後の英語力向上の可能性を含む）をより多面的な視点で評価し、より総合的に判断することが可能となった。選抜基準については入学者選抜を公正に行う観点からガイドラインを今後作成する予定である。

2.3　適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023 年 5 月 1 日時点】学部・学科における入学定員充足率の 5 年平均又は収容定員充足率は、下記の表 1 の数値を満たしていますか。	はい

2.4　学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

表 1

学部・学科における過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均	0.90～1.20 未満
学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率	0.90～1.20 未満

3　教員・教員組織

（1）点検・評価項目における現状

3.1　大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①学部の求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。
グローバル教養学部では、リベラルアーツ教育に対する理解ある者、博士の学位を所有している確かな専門性を有している者、講義において双方向型のアクティブラーニングを実施することができる教授力と高い英語力を有している者、情熱を持って学生を指導することができる者、日本語と英語の二つの言語で校務を遂行することができる者、を求める教員像としており、特に採用にあたっては現行のリベラルアーツ教育の維持・発展に資する専門性と組織における年齢構成も考慮に入れている。

3.2　教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①学部の教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。	はい
3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	いいえ
3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

英語によるリベラルアーツ教育に相応しい教員組織を備えている。人文・社会科学・ビジネスの３つの領域に専任教員をそれぞれ適正な人数で配置している。

3.3　教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
【根拠資料】	
新規教員採用募集要項および昇格に関する規定	

3.4　教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.4①学部（学科）内のＦＤ活動は組織的に行われていますか。	はい
3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022 年度の FD 活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
FD 活動 非常勤講師との懇談会（2023 年 3 月 22 日実施） ハラスメント研修（2022 年 11 月 30 日教授会２名欠席）	
3.4③学部（学科）内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。	
学部内における研究活動の活性化に資するリサーチ・トーク（GIS Talks）を 2022 年度に実施した。 ・2022 年 6 月 26 日（15 名の参加） テーマ：Counter Normative Identities in Contemporary Japan and the Business of Emotions ・2022 年 10 月 12 日（26 人の参加） テーマ:Rapidly Changing World:UNICEF’s role,global intervention,and the situation of children ・2022 年 10 月 26 日（28 人の参加） テーマ:ImmiGRIT: L.A.’s immigrant restaurant owners tell their story of hard work, great food, and a dream ・2022 年 11 月 11 日（95 名の参加） テーマ:Does Culture Shape Affective Virality on Social Media?	

4　学生支援

（１）特色・課題

以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。
【学生支援】 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・学生の自主的な学習を促進するための支援 ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・外国人留学生の修学支援

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

・オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等）	
特色	成績不振の学生の状況把握と指導
主に自己学習支援委員が成績不振の学生（GPA1.0 以下等）を対象に個別面談を行い、その結果を教授会で共有している。また必要であればその共有結果に対して、教授会構成員の意見等に基づき個別に対応している。成績不振の原因の多くは英語力不足を起因とする理解力不足による授業参加意欲の低下及び喪失であるため、ネイティブによるアカデミックアドバイザーの活用や ERP の受講を促し、英語力向上に力を入れさせている。一方、成績不振学生の中には、入学後のミスマッチによる環境不適応者、障がいをもっている者、（低 GPA を全く気にしない）仮面浪人の者もいるため、面談を通して丁寧に対話することで、成績不振の原因を見極め、個々の事情にあった対応を行う努力をしている。	
その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
グローバル教養学部では学生への就職支援として、キャリアセンターの職員によるゼミ別キャリアワークショップや毎年内定者によるキャリアフォーラム（2022 年度は 11 月 24 日と 12 月 1 日に実施）を実施している。加えて、2023 年 4 月、日系グローバル企業や外資系企業への就職希望者、起業希望者等を支援することを目的として、産業界等で活躍する人たち（フェロー）で構成する産学連携組織 GGLI（GIS Global Leadership Initiative）を設置し、また、近年、増加傾向にある海外大学院進学希望者を支援するプログラムである GSAS（Graduate School Application Support）を開始した。今後の学生へのキャリア支援は、キャリアセンターによる支援に加え、GGLI と GSAS を柱としていく。	
課題	
グローバル教養学部は入学試験及び入学後においても国籍を区別しないため、留学生を特別に扱うということはない。実際、グローバル教養学部の留学生は英語あるいは日本語で意思疎通を図ることが可能であるため、基本的に学部（教員・事務）も留学生本人も大学生活において困ることはない。配布物の多くも日本語と英語の両方で作成している。しかし、付加価値として留学生に対して日本語上達プログラムを提供することができれば、留学生のグローバル教養学部への志望度や入学後の学習意欲を高める可能性がある。現在、日本語上達プログラムの導入について検討している。	

5　教育研究等環境

（1）点検・評価項目における現状

5.1　研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

5.1①学部として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
・教員による新入生オリエンテーション（2022 年第 15 回教授会議事録） ・Ethics Advisory Committee の設置と運用（委員会リスト）	

Ⅲ　2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	バランスの取れた知識と論理的思考力を身につけるために、海外大学院進学も視野に入れた専門性の高いリベラルアーツ教育を実現する。
年度目標	現行のカリキュラムの問題点を洗い出し、2024 年からの新カリキュラム

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

		の大枠を策定する。
達成指標		新カリキュラムの大枠を記したカリキュラムツリー。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	カリキュラム委員会および教授会全体で現行のカリキュラムの問題点、学部の将来構想について意見交換を行い、新カリキュラムの大枠を決定した。カリキュラムツリーに関しては、大枠は現行のものを変更しないこととしたが、初年次教育の各種英語スキル科目の再編成や、100 番台から 300 番台まで系統立てて履修ができるような仕組みについて議論し、新カリキュラムに反映していくことを決定した。
	改善策	2024 年度に新カリキュラムを導入できるよう、2023 年度は具体的な科目編成について整理していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	今年度は、今後の新たな４年間の中期目標策定において初年度の年度目標およびその達成指標の年度末報告となるが、中期目標達成に向けた初年度の活動としては、改善策でも指摘されている通り、年度目標では今後さらに具体的な議論の必要性も想定されることから、達成指標も含めた執行部の自己評価は妥当であると判断できる。
	改善のための提言	前年度までの中期目標に関する報告同様、本来の GIS の教育理念にも関連した魅力である教育課程・内容の多様性をさらに多くの多様な受験者に客観的でわかりやすく伝えるために、リベラルアーツ教育に加えて学際教育の文言取り扱い継続とともに新カリキュラムの具現化に関する達成指標の議論が必要であると考えられる。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		全ての授業形態において、双方向型のアクティブラーニングを推進し、学生の主体的な学びを実現する。
年度目標		双方向型アクティブラーニングと学生の主体的な学びに関して教員と学生の理解を深める。
達成指標		FD ワークショップの開催。教員の参加率。 学生へのフォーカスグループ・インタビューの実施。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	FD ワークショップを春学期（7 月 20 日）に開催した。専任教員の参加率は、助教を含め 100％であった。学生へのフォーカスグループ・インタビューは、学生モニター制度を用いて行った（11 月 17 日実施、第一回目は 1-2 年生 5 名、第二回目は 3-4 年生 4 名が参加。教員はいずれも 2 名参加）。GIS の対面授業でのアクティブラーニングに対し、学生がその意義を理解し、満足していることを確認した。新任の専任・兼任教員を採用する際は、双方向型授業の実施方法を面接および模擬授業で確認し、その重要性について伝えている。シラバスの第三者確認では、オンライン授業を含む全ての授業において、双方向型アクティブラーニングが実施されていることを確認した。また、毎年 3 月に専任・兼任教員の懇談会を実施し、双方向型アクティブラーニングの重要性やその実施方法について確認している。参加できない教員にはマニュアルを配布している。
	改善策	FD ワークショップが形骸化しつつあるので、各教員が学生にどのようにアクティブラーニングを促しているのか、活発に意見交換できるような場を設ける必要があるだろう。
	質保証委員会による点検・評価	

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	所見	達成指標も含めた執行部の自己評価は妥当であると判断できる。双方向型アクティブラーニングの充実をはかる基本的な諸活動を継続して実施している点は評価できると考える。
	改善のための提言	高等教育における GIS 学部のような学習環境での双方向型授業の実施のありかたに関しては、学習内容により多岐にわたる印象があるため、実施の方向性確認を基本事項として学生および教員にさらなる周知を促す検討をしている点は評価できると考える。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		4 年間の学習成果を適切に測る評価指標を検討し、学部の理念を反映した教育成果の可視化を強化する。
年度目標		新しい学習成果の指標を模索し、導入する。既存のデータがある場合は、経年変化や GPA との関連について分析を行う。新規の指標の場合は、導入の可否や方法について検討する。
達成指標		カリキュラム委員会での議論。 指標候補のリスト。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学習成果の指標に関しては、卒業後の進学先や就職先を含めるべきとの議論があり、これを記録し、積極的に公開するようにした。入学時、および 10 か月後の TOEFL ITP の上昇について確認した。大学評価室が実施している一年生アンケートと卒業生アンケートを紐づけし、学生が身に着いたと思うスキル・能力の 4 年間の変化を確認するつもりであったが、学籍番号の記入が始まったのが 2019 年であったため、2021 年度の卒業生データとの紐づけはできなかった。代わりに、大学生活で熱心に取り組んだ活動と累積 GPA の相関を調べたところ、自分の意見を発表し、学生同士で議論をし、専門分野の学習に取り組み、ゼミの活動に力を入れた学生ほど、累積 GPA が高いことがわかった。これらは学習成果の指標の候補として検討に値すると言える。
	改善策	簡単に数値化できる学習成果の指標が存在しないため、質的な情報と合わせて学習成果を総合的に確認できるよう引き続き検討をする。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	達成指標に関する執行部の自己評価は妥当であると判断できる。しかし、改善策に関しては、学生成果の把握に関する前年までの学生アンケート活用に関する報告について再確認をするとともに現状把握の確認をする必要があると考えられる。
	改善のための提言	前年までの中期目標での関連した議論を踏まえ、学部の教育理念、リベラルアーツ教育および学際教育と新カリキュラムとの整合性についての観点から、GIS での学習成果に関する幅広い議論が必要と考えれらる。現状では、学部内では、学習成果を主に一般的に理解される指標である、累積 GPA、TOEFL ITP 等の英語力、進学先や就職先を基に総合的に把握し、加えて、大学全体の学生アンケート等を活用しているが数値化は比較的頻繁に行われていると考えられる為、さらなる指標の導入等にはその目的・理由等についての議論が必要と考えられる。
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		①出願者の多様性に対応できる入試方法を常に検討する。 ②入学後のミスマッチをできる限り減らし、安定的な受け入れを実現する。
年度目標		①現行の入試の問題点を洗い出す。秋入学入試の指定校について策定する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

		②入学後のミスマッチの現状を把握する。
達成指標		①秋入学指定校の新規導入。入試改革の策定案。 ②「ミスマッチ」の種類ごとに該当する学生数、原因の特定、対策の立案。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①秋入学入試の指定校として、国内のインターナショナルスクール 5 校を追加した。また、2024 年度入試の大規模な改革案を策定した。 ②2022 年度入学者のうち、退学者 1 名（休学者 0 名）の入試経路と入学時の TOEFL ITP スコアを確認した。学習支援委員が 2022 年度入学生 2 名を含む 10 名の成績不振学生と個別面談を行った。面談対象者の入学時の TOEFL ITP スコア、入試経路、履修単位数などを確認した。一般入試からの入学生にミスマッチが多くみられることが確認できたため、2024 年度入試の改革につなげた。
	改善策	総合型入試を充実させ、安定的に入学定員を満たせるように出願者を増やす。そのためには、これまで入学実績のある高校に対し、積極的に学部の PR を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	達成指標に関する執行部の自己評価は妥当であると判断できる。しかし、改善策に関しては、前年までの報告同様に学部の多様性の維持および喪失の懸念についての検討事項が継続している印象である。
	改善のための提言	出願者増と安定的に入学定員を満すために受験者数全体の底上げが必要と考えられ、GIS に受容的な総合選抜受験者および先般減少傾向の一般入試受験者数改善のために、多様な受験生 1 人 1 人のニーズに可能な限り対応できる豊富で多様な卒業後の進路選択肢の提示も重要でありさらなる多様な進路開拓・出口戦略等の議論が必要と考えられる。
評価基準		教員・教員組織
中期目標		①学部教員の年齢構成や教育分野の多様性、英語による教育・実務能力に最大限配慮しつつ、専任採用人事を続ける。 ②世界基準の教育を提供するという学部理念から、研究業績と英語力を重視した兼任講師の採用を行う。
年度目標		①必要な新任の専任教員の分野を特定し、公募を出す。 ②新規科目・休講科目の担当者の募集を行う。
達成指標		①2022 年度の人事手続きの進捗状況。 ②2022 年度の新規科目・休講中科目の担当者の募集・採用状況。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①Philosophy と Art Studies の二分野で助教の国際公募を行った。そのうち、Philosophy の分野で助教 1 名の採用が決定した。 ②新規科目・休講中科目を担当する兼任教員を募集し、9 名を新規採用し、2022 年度秋学期に 144 科目、2023 年度春学期に 135 科目が開講できることになった。
	改善策	①国際公募を行っても、適任者が見つからないことがあるため、公募の時期を早め、見つからない場合は再度公募できるようにする。 ②兼任教員の離職が多く、ニッチな研究分野に関連した授業名をつけると、後任を見つけるのが難しいため、授業名はできるだけ一般的なものにする。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	中期目標と年度目標及び達成指標に論理的な関連性があり、達成指標に関する執行部の自己評価は妥当であると判断できる。

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	改善のための提言	特になし
評価基準		学生支援
中期目標		学生の進路・キャリアパスに合わせた支援と指導を行う。成績不良者や英語力の低い学生に対する支援を行う。
年度目標		大学院進学希望者に向けたオリエンテーションを行い、支援を強化する。英語に不安を感じる学生や適応できていないと感じている学生に対して、ピアサポートと教員合同の個別相談の機会を設ける。
達成指標		①大学院進学希望者を対象としたオリエンテーションの実施、参加者数。 ②個別相談の実施回数、参加者数。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①大学院進学希望者を対象にしたオリエンテーションは実施しなかったが、進学希望者を資料室のネイティブスタッフにつなぎ、出願のサポートを行った。また、大学院進学に関する書籍を資料室に置き、学生が自由に閲覧できるよう準備を進めている。2024 年 4 月からは Graduate School Admission Support (GSAS)を立ち上げ、オリエンテーションを実施することや、相談・サポート窓口（資料室のネイティブスタッフ）について新入生や在学生に周知する。 ②新入生を対象に、GIS での生活に不安のある学生に対して個別面談を行った（30-35 名）。また、英語に不安を感じる学生に対しては、随時、教員や事務スタッフが個別に相談に乗った（対象者 2 名）。英語スコアが低い学生は成績も低く、成績不振学生として学習支援委員が面談し、学習アドバイスをした（4 名と面談）。
	改善策	①2023 年度からは、GSAS が始動することを新入生オリエンテーションで周知し、説明会を開催する。これまで各教員が個別に行ってきた進学サポートの可視化を図り、在学生に大学院進学を卒業後の選択肢の一つとして意識させる。 ②引き続き新入生対象に個別面談の機会を設ける他、春学期の中間あたりでフォローアップの面談の機会を設ける。また、英語力別のスキル科目において、一番下の２クラスを受け持っている兼任教員と定期的に連絡を取り、必要な学生には面談の機会を設ける。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	中期目標と年度目標および達成指標に論理的な関連性があり、達成指標に関する執行部の自己評価は妥当であると判断できる。しかし、改善策については、多様な受験者数の確保等と関連している為同じ項目内に他のキャリア支援に関する議論も加える必要がある印象である。
	改善のための提言	学生の進路・キャリアパスに関しては、大学院進学支援活動を多様な進路選択肢の一つとして進学および就職等支援・指導の一環に位置づけ、他の項目において提案されている学生のキャリア教育強化等の活動に関する支援策とともに継続して議論する必要があると考えられる。また、今後さらに学力等で多様な受験生の受け入れも予想されるため進学・就職支援と連携した個別相談等実施検討の余地もある印象である。
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		学部の理念と特色を生かした社会貢献・社会連携を推進する。
年度目標		学部主催の研究会（Research Talk/Symposium)を一般公開する。社会連携の企画を立てる。
達成指標		Research Talk/Symposium の開催、参加者数。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

		社会連携企画の立案。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①以下の通り、「GIS Talks」という名称で研究会を計４回開催した。講師は6/28 Dr. Fanasca; 10/12 UNICEF Director, Mr. Benes, 10/26 Dr. Sellers; 11/11 Dr. Tsai. いずれも一般公開し、対面およびオンラインで実施した。参加者はそれぞれ23名、36名、28名、80名であり、他学部、学外からの参加者も見られた。 ②産学連携企画として、グローバルに活躍する企業家等をゲストスピーカーとして招き、学生のキャリア教育を強化するための GIS Global Leadership Initiative (GGLI) を立案し、2023年4月に始動する目途が立った。
	改善策	①「GIS Talks」は 2023 年度も続ける。現時点で、春学期 2 回(Dr. Hyun, Dr. Hiramori)、秋学期2回(Mr.Mallard, Dr. Davis)の開催が見込まれる。 ②産学連携のプログラム GGLI の安定的な運営を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	達成指標に関する執行部の自己評価は妥当であると判断できる。しかし、改善策に関しては、前年までの報告同様の検討事項が継続している印象である。
	改善のための提言	GIS Talks に関しては一定の評価は得られるが、異なる分野の複数教員による学部内での研究発表実施の位置づけについて、実施方法にかかわらず通常の学会発表・シンポジウム等との違い、その企画の立案・計画から新たな委員会を改めて設ける必要があるのか等議論の余地がある印象である。また、全学ですでに実施されているキャリアガイダンス等の企画と異なる産学連携企画のための GGLI の立案は本中期目標の達成において一定の評価は得られるものと考えられるが、そのあり方については今後継続した議論も必要であると考えられる。

【重点目標】
新カリキュラムの大枠を確定する。
【目標を達成するための施策等】
新カリキュラムを定めるためには、今後の学部のあるべき姿、特色についてカリキュラム委員会および教授会で熟議する必要がある。目指すべき姿を明確にした上で、現行のカリキュラムや教員組織、卒業所要単位で足りない部分を割り出す。進学支援や適応支援をカリキュラムに組み込めるか検討する。上記の議論に基づき、採用人事を行い、新カリキュラムをデザインする。

【年度目標達成状況総括】
新カリキュラムの設計に向け、学部の理想と現実についてカリキュラム委員会および教授会で議論し、大枠を決定した。初年次教育である英語スキル科目の見直しや、100番台から300番台の科目を学生が積み上げて履修できるような設計が必要であることを確認した。教員の退職などで、リベラルアーツ教育に欠かせない人文学 (Humanities)の分野が手薄になることから、哲学(Philosophy)と美術(Art Studies)の両分野において助教の国際公募を行い、2023年4月から哲学を専門とする助教1名の採用を決定した。進学支援および産学連携を強化するため、2023 年 4 月から Graduate School Admission Support と GIS Career Program (仮称)を始動させる。適応支援に関しては、個別面談の機会を多数設けながらも、入学時のミスマッチを出来る限り減らすために、2024年度入試より抜本的な入試改革を行うことを決定した。

Ⅳ　2023年度中期目標・年度目標

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	グローバルリーダーとして必要な知識、マインドセット、論理的思考力、批判的思考等の習得を実現する新カリキュラムの施行と海外大学院進学も視野に入れた専門性の高いリベラルアーツ教育を実現する。
年度目標	左記の目標の実現を可能とする新カリキュラム（2024年度より施行）の策定及び兼任講師、時間割等を含む運営体制を構築する。
達成指標	・新カリキュラムの策定 ・運営体制の構築
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	全ての授業形態において、双方向型のアクティブラーニングを推進し、学生の主体的な学びを実現する。
年度目標	講義レベルや学術分野に見合った双方向型のアクティブラーニングの方法、あり方について、学部内のカリキュラム委員会や別途立ち上げるWG等で検討する。
達成指標	・カリキュラム委員会やWGでの検討結果
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	4年間の学習成果を適切に測る評価指標を検討し、学部の理念を反映した教育成果の可視化を強化する。
年度目標	①各入試経路による英語力/GPAの経年変化について分析する。 ②英語力/GPAと進路との関連生について分析する。 ③その他、学習成果を測定することが可能な新指標を検討する。
達成指標	①各入試経路による英語力/GPAの経年分析結果 ②英語力/GPA と最終的な進路先（日系企業グローバル/外資系企業等への就職、起業、大学院進学等） ③新指標の検討結果
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	①出願者の多様性に対応できる入試方法を常に検討する。 ②入学後のミスマッチをできる限り減らし、安定的な受け入れを実現する。
年度目標	新自己推薦入試の円滑な運用（審査基準の明確化）により、志願者数及び入学者数を確保するとともにAPにマッチする入学者を確保する。
達成指標	・自己推薦入試の適切な審査基準の設定と明確化 ・志願者数、入学者数の増加（数・率） ・APにマッチする入学者の確保
評価基準	教員・教員組織
中期目標	①学部教員の年齢構成や教育分野の多様性、英語による教育・実務能力に最大限配慮しつつ、専任採用人事を続ける。 ②世界基準の教育を提供するという学部理念から、研究業績と英語力を重視した兼任講師の採用を行う。
年度目標	①左記の条件に見合う専任教員について採用（1名）する。 ②左記の条件に加え、現行及び2024年度からの新カリキュラム（2024年度より）に寄与する（休講科目や新規科目を担当する）兼任講師を採用する。
達成指標	①専任教員（1名）の採用 ②現行及び新カリキュラムに寄与する兼任講師確保に関する進捗状況
評価基準	学生支援
中期目標	①学生の進路・キャリアパスに合わせた支援と指導を行う。 ②成績不良者や英語力の低い学生に対する支援を行う。
年度目標	①各ゼミにおけるキャリアセンターによる説明会、内定者による就活体

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	験の共有（キャリアフォーラム）に加え、GSAS（海外大学院進路支援サポートプログラム）、GGLI（産学連携組織）を発足させ、学生のキャリア支援を拡充する。 ②定期的に成績不良者や英語力が低い者を洗い出し、面談等を実施する。
達成指標	①GSAS/GGLI 実施報告（実施日、実施回数、受講人数等） ②対象学生の洗い出し及び面談の報告（リスト、実施日等）
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学部の理念と特色を生かした社会貢献・社会連携を推進する。
年度目標	①GGLI（産業界で活躍する人たちをフェローに迎え、フェローによる講義・講演、ワークショップ、パネルディスカッション等を主催する産学連携組織）を通して、学部・学生・産業界の連携及び関係性を構築する。 ②企業等との連携 PJ の検討 ③学部が主催する学術的な研究会（GIS Talks）を一般公開する。
達成指標	①GGLI 主催イベント実施報告（実施日、実施回数、参加者数等） ②GIS 生を対象とした企業等と連携 PJ の検討結果（及び実施） ③研究会の実施報告（実施日、実施回数、参加人数等）

【重点目標】
新自己推薦入試の円滑な運用（審査基準の明確化）により、志願者数及び入学者数を確保するとともに AP にマッチする入学者を確保する。
【目標を達成するための施策等】
・出願者数の増加を目的とした、①入試変更アナウンスの工夫（多様なチャネルの活用とソーシャルメディア戦略の立案と実行）と徹底、②学部独自のオープンキャンパスの実施、③学生によるアンバサダー制度の導入
・ミスマッチを減らすための適切な審査基準の設定と明確化を含む新入試の円滑な運用

【大学評価総評】

グローバル教養学部は、全ての評価基準において、適切に運営がなされていると判断できる。また、教育課程・学習成果においては、グローバルリーダーを養成すべく、幅広い分野の科目を提供しているだけでなく、少人数であることを活かした多様な手法によるアクティブラーニングを実施するなど充実した丁寧な教育を行っている点が高く評価できる。そして、さらなる改善・向上のために教員、学生双方の取り組みが充実している点も評価できる。また、学生支援においても成績不審者への個別面談やアカデミックアドバイザーを設置して学生の相談に応じる環境を整備するなど、個々の状況に応じた丁寧な対応を行っている点も高く評価できる。加えて、学生への就職支援として、キャリアセンターとの連携などの取り組みをしている点も評価できる。
さらに、新カリキュラムの検討、入試方法の改善など、改善・向上のための取組を継続させている点も評価できる。

【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023 年度自己点検・評価シートに記載された Ⅱ自己点検・評価（１）点検・評価項目における現状を確認	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた
＜法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目＞	

※　回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。